



1 日本初公開

第1章 信仰と ルネサンス

15世紀初頭から16世紀にかけて欧州各地でルネサンス文化が花開きました。神と信仰に支配されていた中世の世界から脱却し、人々は人間中心の文化を理想とする「再生(ルネサンス)」を目指します。平面的に超然とした姿で描かれていたキリストや聖母は、立体的に人間らしく描写されるようになります。



2 日本初公開

- 1 フラ・アンジェリコ《キリストの裁判》1420-23年頃
Maitland E. Gregg Collection, Bequest of Maitland E. Gregg, 1947/43,38.5
ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- 2 ラファエロ・サンツィオ(サンチ)《ダマセマの祈り》1504年頃
Funds from various donors, 1937/32,130.1 ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- 3 ルカス・クラナハ(父)《バリスの審判》1528年頃
Reges Fund, 1928/25,221 ニューヨーク、メトロポリタン美術館



3 日本初公開

メトロポリタン美術館展 —西洋絵画の500年—

米国の至宝、西洋絵画史の巨匠の名画が勢ぞろい

世界三大美術館のひとつ、米ニューヨークのメトロポリタン美術館が所蔵する西洋絵画から、選りすぐった主要作品が一挙来日します。ティツィアーノ、カラヴァッジョ、ジョルジュ・ド・ラトゥール、レンブラント、フェルメール、ルーベンス、そしてゴヤ、ターナー、クールベ、マネ、モネ、ルノワール、ドガ、ゴーギャン、ゴッホ、セザンヌ…15世紀の初期ルネサンスから19世紀のポスト印象派まで、西洋絵画史を彩った巨匠の名画65点を展示。このうち46作品は日本初公開です。米国が誇る至高の名画を、ぜひこの機会にご堪能ください。



5 日本初公開



6 日本初公開



7 日本初公開

European Masterpieces from The Metropolitan Museum of Art, New York

第2章 絶対主義と 啓蒙主義の時代

君主が主権を握る絶対主義が強化された17世紀から、啓蒙思想が興隆した18世紀の絵画を紹介します。激しい明暗の対比と劇的な構図のドラマティックなバロック様式は、カトリック教会や宮廷の専制君主の誇示に活用されました。一方で市民社会が実現したオランダでは、風景画や静物画、風俗画が発展します。



4 日本初公開

- 4 ジョルジュ・ド・ラトゥール《女の肖像》おそらく1630年代
Reges Fund, 1962/60,30 ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- 5 ヨハネス・フェルメール《信仰の家畜》1670-72年頃
The Fletcher Collection, Bequest of Michael Fletcher, 1911/32,103.18
ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- 6 フランソワ・ブーシェ《ヴィーナスの化粧》1751年
Bequest of William K. Vanderbilt, 1920/20,195.9
ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- 7 マリー・ド・モーリス・ヴィーレル《マリー・ジョゼフィーヌ・シャルロット・デュ・ヴァル・ド・ノーニュ(1868年没)》1801年
Ms and Mrs. Isaac D. Fletcher Collection, Bequest of Isaac D. Fletcher, 1917/41.1,120,204
ニューヨーク、メトロポリタン美術館



8

第3章 革命と人々の ための芸術

19世紀になると欧州全土が急速に近代化します。社会の変化を受け芸術にも新しい潮流が現れます。個人の感性や想像力に基づき幻想的な風景や物語を自由に描くロマン主義、農民や労働者の生活情景をありのままに描くリアリズム(写実主義)。リアリズムは1870年代には印象派に発展し、その後には躍進するポスト印象派による形態の単純化、構図の平面性、鮮烈な色彩表現は、20世紀の前衛芸術の先鞭となりました。



9 日本初公開

- 8 オーギュスト・ルノワール《ヒナギクを持つ少女》1889年
The Mr and Mrs. Henry H. Lusk Jr. Purchase Fund, 1959/59.21
ニューヨーク、メトロポリタン美術館
- 9 ボール・セザンヌ《リンゴと洋ナシのある静物》1891-97年頃
Bequest of Stephen C. Clark, 1960/65,101.3
ニューヨーク、メトロポリタン美術館